

この人と

「一対一で老人介護をしたい」と、小規模多機能型居宅介護とグループホームが入る施設「2人3脚」を2007年8月に富士市境に設立した。

3人の子育てが一段落したのちに、44歳で沼津市立沼津高校の専攻科で正看護師の資格を取り、富士市の精神科病院で働き始めた。4年後には、新設された老人

性認知症疾患療養病棟の看護課長になり、認知症の高齢者の世話をした。

看護師、補助看護師合わせて10人ほどで介護にあたっていたが、

「一対一で介護」信念実践

最大で60人にもなる患者全員にはなかなか目が行き届かなかった。寝たきりの高齢者は症状が進行・悪化することが多く、「一対一で介護できれば」と歯がゆさが募った。

8年がたち、利用者の都合で通ったり宿泊したりできる小規模多機能型居宅介護と、生活するグループホームの双方を備えた施設を作ろうというかねての構想を移行

に移そう

と、退職した。経験も知識もなかったが、詳

細な事業計画を作って銀行から1億円の融資を受けた。近隣住民には一人ずつ説明し、翌年、「2人3脚」を開設した。

がきつい割には給料が安い」などとして介護の現場は人手不足といわれるが、「2人3脚」では正職員に最低でも手取りで月20万円の基本給を支払っているという。施設のスタッフ向けに勉強会を月2回開き、出席者には残業代も払っている。「学ぶ意欲を持たせ、もっといいサービスを提供したい。労働環境には一番気を配りたい」。待遇改善に努め、しかも2年目には当初計画通り黒字化を達成した。

「2人3脚」では、利用者がスタッフと一緒に食事の用意や洗濯などの家事をしたり、遊んだりして過ごす。症状の進行が止まる人も多く、「車いすを使っていた人が自分の力で歩けるようになったこともある」という。ポイントは、相手をできるだけ寝たきりにしないこと。「一対一で付き合えば必ず良くなる」という信念は実践によって裏付けられたと感じている。

沼津高専攻科に通った時、周りには高校を卒業したばかりの若者ばかりの中で、「一言も逃すまい」と授業に集中し、優秀な成績を収めて答辞を読む役にも選ばれた。2年間、無遅刻無欠席だった。「常に上を目指したい。知識を得たい。数年後には施設を後進に任せ、老人介護のノウハウを伝えるため大学生向けに講演などをしている。この夢を描いている。「人の役に立つことが生きがいになった」。子供のように目を輝かせた。

新潟県生まれ。市立沼津高衛生看護科卒。富士市内の個人病院で3年間准看護師として働き、結婚で退職。1989年から再び市内の病院で准看護師として働き始め、途中、正看護師の資格を得て、2006年まで勤めた。現在は社団法人「認知症のひとと家族の会」県支部の役員も務める。富士市厚原在住。

プロフィール

施設の利用者とボール遊びをする石田友子さん（富士市の「2人3脚」で）

